

「今次の一連の危機によるスイスへの影響～リスク回避行動と、税逃れ対策の強化から」

藤田憲資(保険医療経営大学)

報告要旨

今次の一連の危機を受けて、投資家によるリスク回避行動と、先進諸国を始めとする税逃れ対策の強化が見られる。とりわけ、こうした動きは、「避難通貨」、「銀行機密」ないし「タックスヘイブン」の特徴を併せ持つスイスに対してより大きな影響を及ぼすとみてよい。しかし、その影響の中身については様々な見解がある。そこで、本報告では、こうしたリスク回避行動と、税逃れ対策の強化によるスイスへの影響について、主としてスイスの資金フローとの関係から、以下の諸課題を明らかにすることを試みる。

まず、今次の一連の危機を受けたスイスをめぐる資金フローについてである。そのために、ここでは在スイス銀行の地域別資金フローの全体像を提示する。その狙いは、スイスをめぐる資金フローパターンの全容と、その変化を明らかにすることである。

次に、投資家によるリスク回避が、スイスの資金フローに及ぼす影響についてである。ここでは、同影響として、スイスへのリスク回避マネーに係る通貨ないし相手国に着目し、これを、在スイス銀行の地域別資金フロー、スイスフランの為替レート、および在スイス銀行の通貨別対外取引の3つの側面から探る。

最後に、税逃れ対策の強化が、スイスの資金フローに及ぼす影響についてである。その際、同対策のうち、「銀行機密」への圧力については、口座情報の共有に向けた動きに、他方、「タックスヘイブン」への圧力については、税優遇の見直しに向けた動きにそれぞれ着目する。さらに、同影響については、各々の圧力を受けてスイスからマネーが流出するとのしばしば指摘される想定を1つの手がかりにして、各想定のコアとなる在スイス銀行の「匿名性」と、在スイスの富裕な人々ないしマネーの動向について検討する。

その結果、本報告では、主に次の3つを明らかにした。第1に、今次の一連の危機を受けたスイスをめぐる資金フローについては、在スイス銀行の地域別資金フローの観点から、「欧州」、英国、「オフショア」および信託に係る取引パターンの変化を示し、スイスの「中継地」としての役割変化について指摘した。

第2に、スイスへのリスク回避マネーに係る通貨ないし相手国については、リスク回避行動を危機時におけるスイスへのマネーの流入、および当該国通貨に対するスイスフランの増価と解釈すれば、通貨ではユーロとポンドについて、さらに、ユーロ圏の中では主にイタリアおよびルクセンブルグについて同状況をおよそ読み取ることができた。

そして、第3に、税逃れ対策の強化が、スイスの資金フローに及ぼす影響については、両圧力に係る、口座情報の共有、および税優遇の見直しに向けた取り組みが、いまだ途上にあることもあって、両圧力を受けてスイスからマネーが流出するとの想定は、限定された状況下でのみ認められた。